

## 特集 2 環境配慮製品開発と販売への取り組み

自然と科学を融合するヤスハラケミカルにとって、  
環境配慮製品をいち早く提供することは使命です。

「自然との共生」は、今や全世界の企業が  
最優先で取り組むべき課題として  
認識されています。

天然由来のテルペンを原料としている  
弊社には、さまざまな分野から  
環境対応へのお問い合わせが  
寄せられています。

ここでは環境配慮製品に関する  
弊社の取り組みをご紹介します。



研究部  
多田 敏基

研究部  
主任 北村 昌三

営業部  
課長 後藤 英夫

営業部  
日南田 裕介

### 「自然との共生」を考え環境を営業と研究の重点テーマに

弊社は「持続可能な暮らしの実現に貢献する」ことを大切に  
しており、SDGsやESGなど近年の環境への世界的な関心の高  
まりを受け、ホットメルト・溶剤・樹脂などそれぞれの分野で環  
境対応に関する情報収集を積極的に行い、研究開発と製品化  
を進めています。

そんな活動の中で2020年には、バイオマス比率を高めた  
「包材用ホットメルト接着剤」を大手飲料メーカーにご提案し採  
用されました。

「自然との共生」への取り組みの一例としてご紹介します。

#### ▶ 環境配慮型「包材用ホットメルト接着剤」開発と販売の経緯 ◀

2020年初冬、営業部門で環境を重点テーマに営業活動を進  
めることを決め、環境問題に熱心な取引先をリストアップし提  
案活動を展開しました。

ある大手飲料メーカーが「バイオマス原料を用いたホットメ  
ルト接着剤」に興味を示されたことから、営業担当者と研究担  
当者が一緒に訪問し、詳しいニーズの聞き取りと専門的な技術  
説明を行いました。そしてすぐに研究部に専任研究体制を整  
え、ニーズや条件に合わせた研究開発に取り組みました。

包材用ホットメルト接着剤はこれまでは石油系の原料で製造  
するのが一般的で、弊社としても顧客ニーズに合わせたバイオ  
マス原料によるホットメルト接着剤は初めての取り組みです。そ  
こでこれまで使ったことのない原料も含め天然由来原料を多  
数サンプル試験し、包材に適した原料を抽出した上で、配合の  
研究を進めました。こうした新材料や新配合に関する研究は慎

重に試験を重ねる必要があるため通常一年程度の期間を要し  
ますが、今回の開発に関しては、当社が永年蓄積してきたテル  
ペン樹脂の知見と包材用途向けの設計技術を活かした結果、こ  
れまでにない高性能のホットメルト接着剤を、約半年という短  
期間に開発し提案することができました。



少量のホットメルト接着剤を使うだけで、十分な接着力が確保できます。

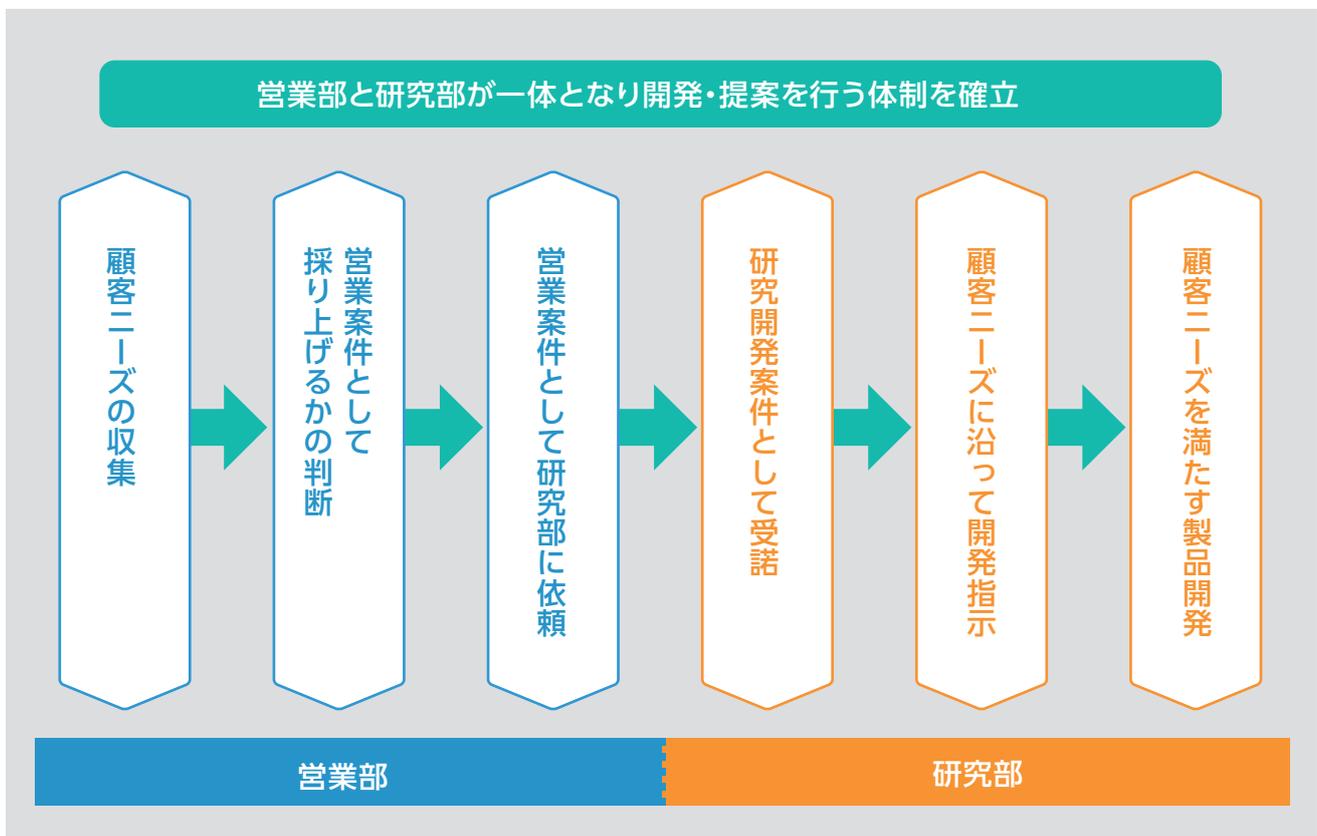
## ■ 営業部と研究部が一体となって顧客の要求を満たす開発・提案体制

2020年度の環境報告書でもご報告しましたが、弊社では、2019年より営業部と研究部の組織体制を見直し、営業・研究が一体となってお客さまに対応しています。今回の環境配慮ホットメルト接着剤開発提案においても、お客さまから信頼感とご満足をいただく上で、この連携体制で臨んだことで大きな成果に結びつきました。

お客さまからのヒアリングの際、営業担当者とともに研究員が同席することで技術的な説明も的確に行えるだけでなく、お

客さまのご要望を研究員が直接聴くことで理解や意欲が向上し、開発スピード短縮にも役立ちました。また営業担当者と研究員が連絡を緊密に取り合うことで、お客さまへの経過報告もスムーズに行えました。そして、開発途中にお客さまを福山工場研究棟にお招きし開発現場をその目で確認していただくことで、より深い信頼関係を築いていきました。

こうした緻密なコミュニケーション連携体制が、開発スピードの短縮と受注につながる要因になったと考えています。



## ■ 「持続可能な社会を実現する」ための今後の取り組み

「環境」というキーワードで展開・提案できる製品は、これから多方面に広がる可能性があります。

本件のようにバイオマス原料を使用した製品はもとより、生分解性材料を使用した製品、リサイクル性を考慮した製品、脱プラスチックや減プラスチックなど、さまざまな視点からのアプローチが可能と考えます。

弊社ではそうした将来のニーズに対し、現段階から新素材や関連技術などの情報収集するとともに、分析、評価技術の向上、データの蓄積に努めています。そしてAIを活用した解析や配合支援などを実用化することで、いざ具体的な要望が発生した時に、すぐに対応できる体制づくりを準備しています。